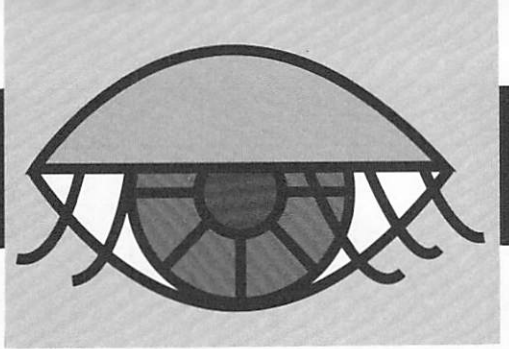


FAME Report



京都ノソキ見トピックス

取材・文/南典子 写真/内藤貞保

よよりり感じやすく、刺激的やすく、

感性世代のイメージネーション・パワー。ファッションと音楽の融合が眠れる感性を刺激する。



聞き慣れた曲でも、一人一人の感性によって、思い描くイメージはさまざま。各々の作品に個性が光っていた。



パンクやグランジといったファッションを例にあげてみてわかるが、音楽とファッションはともに密接な関係にある。その二つの要素の関係に着目し、服飾とサウンドを一体化させたまったく新しいタイプのファッションショーが、北山はジャパンクラブで行なわれた。ショーをプロデュースしたのは成安造形短期大学服飾文化学科の卒業生たち。

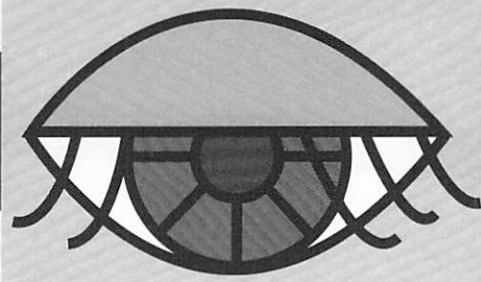
日常生活の「衣・食・住」のなかで、特に変化し表現しやすい「衣」に夢を託し、オリジナルファッションアートショーと銘打ったこのショーも今年で3年目を迎える。今回のテーマは、「最高の刺激剤A HIGHEST STIMULANT sound」。切っても切れないファッションと音楽とをミックスさせ、DJも参加するというまったく新しいスタイルのショーを展開。「音にはイメージを膨らます力があります。そして、ファッションと音は、互いに刺激されながら同じ流行を生みだしている」と語るのは、主催者代表の井上潤子さんと大

須賀千野さん。その考えを自分たち流にアレンジし、これまでのようにファッション先行型のショーではなく、音を基本におき、そこからイメージするファッションを採用。そのため、DJが各デザイナーに曲を提供するという異例のスタイルをとった。

参加したデザイナーは、プロ、アマ含め総勢14名。ラップやレゲエといった旬のサウンドにのせて、温かみや躍動感、宇宙などそれぞれが感じたままのイメージを一枚の布に表現。個性豊かな作品が次々と披露され、1時間半あまりの間キャラーの感性を刺激し、楽しませた。

「私たちも含め、後輩たちもただ、好きなように思ったままのファッションを楽しんでいます」。歌詞の意味などわからなくても、ただ感じたままを表現する若い世代のファッション。頭で考えるより、心で感じる。この制限のない自由なイメージネーションこそが、たとえそれが一過性のもので終わっても、新しい流行を生みだしていくのだから。流行とは、本来そういうものであるということを変更して実感した。

FAME Report



京都ノリキ見トピックス

取材・文/木村紀子 写真/内藤貞保



右からジョー岡田氏、長沢住職、ケン寺田氏。

おひと味違った京都、 お見せします。

観光ガイドのベテランとお寺の住職が集まって、今までにない京都ガイドのサービスを始めたとか。さてその内容は？

京都にとって建都1200年を迎えた昨年は、新しい時代の幕開けの年でもあった。では新時代に一步踏み出した今年、我々はこの1200年目の京都をどのような形で人々にアピールしてゆくのが望ましいのだろうか。ここに、これからの京都をより一層盛りたててゆこうという頼もしい3人組が集まった。「サムライショー」で一世を風靡し、ちょんまげ姿で有名なジョー岡田氏。ロバート・デニロ、トム・クルーズなど数々のハリウッドスターの観光案内の実績を持つ、日本通訳案内業者連盟副理事長ケン寺田氏。そして、そのユニークな語り口で知られるつじ説法の「コアラ和尚」と嵯峨野・阿弥陀寺の長沢普天住職。この「筋縄ではないかない3人が、観光案内グループ「京都スペシヤリストガイドサービス」を旗揚げしたのは、昨年末のことだった。「京都を訪れる観光客は、清水寺や銀閣寺など一般的な観光地しか訪れない。それもわざわざ混んだ場所に大勢で押しかけ、それで京都がわかったような気になってしまふ。でも本当に面白い場所は、そのあいだあいだに

あるものなんです」とは寺田氏。観光案内のプロから見れば、通りいっぺんの京都巡りはいまいち味気ないものであるらしい。では彼らが目指す京都案内とは？「型にはめず、こちらがお客さんの型にはまる新しい形のガイドですよ」と岡田氏が言う。客は自由にどんな京都を見たいのか希望を述べればよい。3人がそれぞれの個性を駆使して、生活、文化、自然に密着した生の京都を見せてくれるのである。現在は「京にいた女たち」として、京にゆかりのある歴史上の女性たちに関係する名所を案内するというツアーを、月替わりで企画中。「寺を見るだけでなく、坊さんの話を聞くなど、もっとふれあいを大切にしたい」という長沢住職の言葉通り、ガイドブックには記されていない、本当の京都のあたたかさに触れるよい機会かもしれない。

●コース、料金などの問い合わせは
☎075(241)3716
まで。